

西南学院大学ラグビー部史

# 創部 80 年の記録

2 部・新制大学以降

(1950 年度～ 2006 年度)

## 51期メンバー

### ●旧制専門学校

■3年生 横野 信義・坂本 譲  
宗 博之・高橋 逸郎  
満田 譲二・吉田 喜剛  
本城 瑞穂・松下 博之  
三隅 哲夫・宮下 正義

■2年生 森 明

■1年生 小出 勝昌・藤 三千夫  
藤本 清純・萩原 静雄  
草場 勲・松津 道俊

### ●新制大学

■1年生 秋吉 元・大久保富雄  
岡本 信弘・楠川 慶一  
中田 主基・平塚九州男  
右田 和雄・山崎 満  
播磨 淳・佐々倉千秋



## ■昭和26年1月2日

第1回全国地区対抗大学大会

(瑞穂ラグビー場)

### ★第1回戦

西南学院大 36 - 0 愛知学大  
(北九州) (東海北陸)  
松山商大 9 - 9 東北学院大  
(中四国) (東北)  
宮崎大 13 - 3 関大  
(南九州) (近畿)  
北大水産 27 - 3 青山学院大  
(北海道) (関東)

## ■昭和26年1月4日

### 準決勝戦 西南・北大決勝へ

北大水産 6 (6-0) 3 松山商大  
0-3

西南学院大 46 (23-0) 0 宮崎大  
23-0

平山	}	FW	島田文
右田			新田
横野			高橋
坂本			黒木
山崎			長谷川
宮下	}	HB	長友
高橋			貴島
佐々倉			内田
榊			大久保
中田			江藤
岡本	}	TB	村上
吉田			海江田
宗			田方
満田			矢野
楠川			島田良
		FB	

風上に陣した西南は盛んにキックをあげ、一方的に宮崎を圧迫し、6分、9分、19分とゴールを陥れた。これに対し宮崎はハーフの連絡悪くTBパスが全然物にならず。加えてめくらパスで自ら窮地に陥り西南に前後半とも押しまくられた。

(「毎日新聞」より)

## ■昭和26年1月6日

### 西南学院大が初優勝 —新制大ラグビー



西南学院大 8  $\left( \begin{matrix} 5-0 \\ 3-3 \end{matrix} \right)$  3 北大水産

平山	}	FW	三	■
右田			福	原
横野			弦	卷
坂本			上	林
山崎			木村光	
宮下	}	HB	坂	
高橋			横	山
佐々倉			木村淳	
榊			武	長
中田			橋	本
岡本	}	TB	菅	原
吉田			米	谷
宗			岩	間
満田	}	FB	平	川
楠川			石	高

第1回新制大学ラグビー大会最終日、西南学院（北九州）対北大水産（北海道）の優勝戦は、6日午後2時から名古屋ラグビー場で挙行。技巧に優る西南学院が初優勝を遂げた。

概評：試合は19分、西南の吉田が1ゴールをあげたまま一進一退で、前半はむしろFWドリブルに一貫した戦法をとった北大の方がゲームをリードしていた。後半に入ってから北大はFWがスクラムでなどキープを濫用しすぎバックスへの送球に時間を浪費したのは感心出来なかった。かくてゲームは5対0のまま進まず、この間北大はゴール前のスクラム・トライを再三失敗するにおよんで、これまで元気に戦ったFWも集散が急に遅くなった。これに反し西南はスタンド・オフが大きくパントしては北大の後陣を脅かし28分ゴール前でスクラムを回してのトライはさしも白熱したゲームに最後の止めを刺したもので31分北大も米谷のトライで3点を返したが、時すでに遅く遂に西南の優勝となった。

（「伊集院氏の資料」より）

### 早大ラグビー迎え撃つ

12日（小倉）全九州学生  
15日（福岡）全九州

9日の対関学戦に勝ち、文字通り学生界の王座をしめた早大ラグビーチームは福岡に来征。小倉で12日全九州学生選抜軍、15日福岡平和台で全九州軍と対戦する。

早大はフォワード、バックスともに平均のとれた好チームだ。早大が誇る重量フォワードはロック橋本を中心に、フロントロー他殆んど超下級で固め、タイトルーズラインアウトの球の支配などに恐るべきものがあり、8人一体のオープンへの展開は注目に値する。HBは軽快な動きをみせる下平、小山、TBは横岩、青木の快足、ウイング。攻撃面ではエース新村が参加して強力フォワードと快足バックスで伝統の「ゆさぶり」を完成している。

学生選抜軍は全国新制大学の覇者西南学院を中心に、商大、九大に高校の新鋭が加わっているが、早大の強力な前後衛にどれだけ食い下がるかの興味があり、技術・体力ともに相当の開きがあるので、30点ぐらいの差がつくのではあるまいか。

#### \*九州学制選抜軍

監督 / 新島（明治OB）

- FW 小出（西南）・右田（西南）  
横野（西南）・田中（福商大）  
坂本（西南）・西村（九大）  
佐々倉（西南）・高橋（西南）  
松重（福高）
- HB 松本（小倉高）・中田（西南）
- TB 藤井（修猷館）・岡本（西南）  
日田（福高）・宗（西南）  
星加（小倉高）・渡（福高）

●戦評

秋吉（修猷館）

FB 吉田（西南）

（昭和26年1月10日「夕刊フクニチ」より）

学生ラグビー界の王者早稲田大学対九州学生選抜軍との試合は12日小倉豊楽園で小倉高対東筑高オープン戦のあとをうけ午後3時15分から挙行。19対3で早大に凱歌があがった。

早大	19	$\left( \begin{matrix} 8-3 \\ 11-0 \end{matrix} \right)$	3	九州
高見沢	}	FW	}	小出（西南）
石橋				右田（西南）
林				横野（西南）
平井				田中（福商大）
■井				高橋（西南）
藤井	}	HB	}	松重（福高）
伊藤				西村（九大）
原田				佐々倉（西南）
三野				山本（小倉）
新村				中田（西南）
川原	}	TB	}	岡本（西南）
小山				吉田（西南）
佐月				山田（福高）
横岩				星加（小倉高）
大藤				FB

◇FW橋本以下6名のレギュラーを落とした早大は闘志でぶつかった九州学生軍の前に意外にも苦戦に陥り、とくにHB三野の若さのためバックの活躍思うにまかせなかったが猛烈なルーズ・タイトとTBの俊足で確実にチャンスをものにして面目をほどこした。西南を中心とした九州軍は合宿練習でよくまとまり善戦したのは賞されてよい。

（昭和26年1月13日「西日本新聞」より）

●思い出の記

昭和26年・坂本 譲

新制大学全国大会第1回戦。私共がユニフォームに着替え、スパイクの紐を締めている時の事であった。宮崎大学の河野教授（後の西南ラグビー部長）が我がチーム速水監督の許へ来られた。

私共は、その2年前インカレ3連覇の時に宮崎で共同の合宿をしていたから河野教授をよく存じ上げていたので何等違和感はなかった。

「速水さん」と河野教授。「何ですな」「今日、関大との対戦のことやがね！今日はキック&Rush1本やりで行こうと思うとるとやが」「う～ん、よかと思うばい。宮崎は、FWもしっかりしとるし、あなたの気合で、FW、BACKSが一斉に動けば面白いと思うよ。3回続けて成功すると相手はびびる。これが、色々手練手管をするよりも、初めに決めてしもうたら希みがあると思うよ」「そうねえ。それじゃ」

果たして当日の宮大-関大戦は徹底した宮崎のUp & Rush作戦。私は人知れず御二人の会話を聞いていただけに興味深々で試合を見た。宮大13-3関大。やはり宮崎、河野イズムを忠実に実行。第1回戦勝利。ヨカッタネ宮崎。それにしてもキックがよかった。

これは当日。誰も気付かなかった、両監督の会話であった。

そして準決勝。宮崎戦に西南は宮崎のお株を取って、徹底してUp & Rushを仕掛け、早い球出しをバックに回し勝利を奪い取った。



# 第52期 (1951年度)

監督/速水 伝吉  
S 26.4 ~ 27.3



三連勝記念写真



第2回全国新制大学ラグビー大会  
1952年1月(名古屋瑞穂にて)

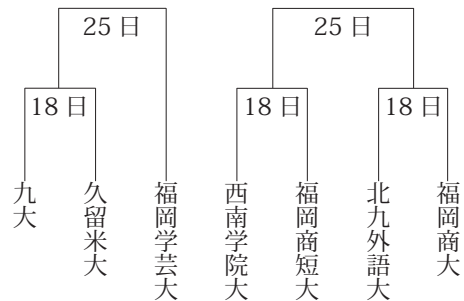
## 52期メンバー

- 4年生 森 明 (旧姓 榊)
- 3年生 荻原 静雄・藤 三千夫  
藤本 清純・草場 勲  
小出 勝昌
- 2年生 秋吉 元・中田 主基  
右田 和雄・山崎 満  
播磨 淳・岡本 信弘  
楠川 慶一・大久保富雄  
平塚九州男・佐々倉千秋
- 1年生 高橋 和臣・池田 欣一  
伊藤 申吉・本田 博士  
大上 昭雄・山本和好  
大山 浩司 (旧姓 長)  
藤田 浩三・山崎 恵淳  
水野 能栄・岡部 秀安

## ■昭和26年11月

全国地区大学対抗戦スケジュール

○大学の部



●戦績

西南学院大 78 (48-0 / 30-0) 0 福商短大

山本	}	FW	浦	}	FW
秋吉			土牛		
藤田			草 ■		
藤本			大 ■		
平塚			高柳		
石田			藤田		
長			小田		
佐々倉			金子		
岡部			上田		
中田			江藤		
岡本	}	HB	豊田	}	HB
高橋			宮原		
中村			松原		
大上	}	TB	山藤	}	TB
藤			照野		
			FB		

この試合の勝者2校は準決勝へ進出 他支部の勝者と12月1、2日に熊本で行われる九州大会に進出する

■ 26年11月25日

九 大 25 (9-0 / 16-0) 0 福学大

西南学院大 25 (14-3 / 11-0) 3 福商大

評：商大はキックオフ後バックスの突進で先取得点をあげ、強引に西南に食い下がったが、前半中ごろから調子をだしてきた西南は徐々に地力を発揮、バックスの好走で順当に商大を破った。商大のFWはむしろ西南よりも優勢に戦ったが走力がFW、TBとも西南に比して劣っていた。

(村上)

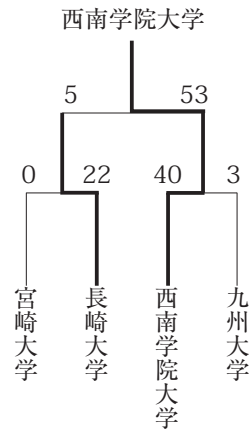
長崎大学 24 - 3 熊本短大

評：長崎大学はタックル、セイビングよく順当な勝だったがスクラムハーフ、スタンドオフの球の持ちすぎが多くチャンスを逸し

ていた。これがなければ得点差はまだひらいていたかもしれない。熊本短大はファイトなくFW・TBとも乱れがちで練習不足を思わせた。

■昭和26年12月2日(熊本工大)

九州大会決勝



西南学院大 53-5 長崎大

山本	}	FW	副島	}	FW
秋吉			大場		
麻田			今村		
平塚			近藤		
藤田			濱田		
石田			佐藤		
長			加茂		
佐々倉			一ノ瀬		
岡部			林田		
中田			竹内		
岡本	}	HB	新貝	}	HB
高橋			田中		
秋吉			豊田		
大上	}	TB	松田	}	TB
楠川			松川		
			FB		

評：長崎がどこまで西南に食い下がるかが問題であったが、西南はキックオフ直後から長崎のラインを突破して高橋、岡本、大上らの力走からたてつづけにトライをかさねて快勝した。技術的には一段の開きがあったが、長崎は最後まで健闘して後半1ゴールを返したあたり賞されてよい。(村上)

■ 27年1月2日 (瑞穂ラグビー場)

西南、神商大に楽勝。

第2回全国新制大学ラグビー大会第1日目は、2日名古屋市瑞穂ラグビー場で挙行了した。

西南学院大 (北九州)	34	$\begin{pmatrix} 13-0 \\ 21-0 \end{pmatrix}$	0	神戸商大 (近畿)
北大水産学部 (北海道)	22	$\begin{pmatrix} 8-0 \\ 14-9 \end{pmatrix}$	9	長崎大 (西九州)

■ 27年1月4日

「西南学院、勝ち進む」

～全国新制大学ラグビー

全国新制大学ラグビー大会第2日は午後1時から挙行。北九州代表の西南学院、関東代表の学習院がそれぞれ楽勝、決勝戦に進んだ。

九大	25	$\begin{pmatrix} 9-0 \\ 16-0 \end{pmatrix}$	0	福学大
西南学院大	25	$\begin{pmatrix} 14-3 \\ 11-0 \end{pmatrix}$	3	福商大

■ 27年1月6日

「西南再び全国制覇」

～新制大学ラグビー大会

第2回全国新制大学ラグビー大会最終日西南学院対学習院決勝戦は6日名古屋瑞穂ラグビー場で挙行。西南は昨年度に引続き優勝した。

西南学院大	28	$\begin{pmatrix} 8-0 \\ 20-0 \end{pmatrix}$	0	学習院大
-------	----	---	---	------

山本	}	FW	松平
小出			三樹
麻田			稲川
手塚			南島
藤本			百尾
石田	}	HB	武瀬
長			瀨川
佐々倉			三宇
榊			金田
中田			岩村
岡本	}	TB	遠藤
高橋			大倉
秋吉			本間
松津	}	FB	植田
楠川			垂井

評：雨のため学習院が得意とするオープン戦法をさまたげ、FWに1日の長ある西南の大勝に終わった。学習院は前半良くボールをバックに回したが雨のためボールがキープできず、ノックオンをくりかえしてチャンスを失って西南の攻撃を許した。



# 第53期 (1952年度)

部長／河野 博範  
監督／速水 伝吉  
コーチ／八木 隆輔  
S27.4～28.3



第3回全国新制大学ラグビー大会 (対岩手大戦)

## 53期メンバー

- 4年生 松津道俊
- 3年生 秋吉 元・大久保富雄  
岡本 信弘・楠川 慶一  
佐々倉千秋・中田 主基  
右田 和雄・山崎 満
- 2年生 池田 欣一・伊藤 申吉  
大上 昭雄・大山 浩司 (旧姓 長)  
本田 博士・山崎 恵淳  
高橋 和臣・藤田 浩三  
岡部 秀安・山本 和好  
小出 勝昌・藤 三千夫  
藤本 清純・萩原 静雄  
水野 能栄
- 1年生 秋吉 包雄・浅川喜久夫  
堺 紀代美・中野 久司  
宝来 武史・石橋 学  
今橋 利重 (旧姓 渡)  
大野 浩・許斐 英朋

- 昭和27年3月 ニュージーランド在鮮部隊対西部学生選抜軍に佐々倉・中田・高橋の三君選抜さる。
- 昭和28年1月 早稲田大学対全九州軍に中田選抜さる。中田出場。
- 昭和28年2月 全日本三地域対抗ラグビー全九州軍に中田選抜さる。
- 昭和28年2月 全福岡対英極東海軍に大野・佐々倉・石橋・中田・高橋の五君選抜さる。全員出場。

## 戦績

### ■ 公式戦

- 6 - 28 門司鉄道管理局
- 8 - 11 九州電力
- 11 - 20 福岡クラブ
- 27 - 8 三井染料
- △ 13 - 13 九州電力
- 21 - 31 関西学院大
- 3 - 0 八幡製鉄

### ■ 第2回全九州大学ラグビー大会

- 91 - 0 九州工業大
- 27 - 3 福岡商科大
- 不戦勝 久留米大
- 54 - 0 長崎大 (優勝)

### ■ 第3回全国新制大学ラグビー大会

- 44 - 3 岩手大
- 29 - 3 関西大
- 33 - 12 青山学院大 (優勝)

### ■ 朝日招待ラグビー



練習と夏合宿



見守る速水監督

練習は、初夏より全員が真剣に取り組み、他に預けられた連続的突進力を養成すること、恐れずにグラウンド一杯のプレイをすることを心掛け、九州電力、修猷館との多くの練習試合を行なった。

8月の2週間に及ぶ鞘ヶ谷での夏合宿は、炎天下、走って走ってスクラムの連続、地獄の責め苦にもいた猛練習となり、中でも連日夕刻からの八幡製鉄との練習試合では、満身創痍で殺気立つものがあつた。

シーズンを迎えてからは、鍛えに鍛え抜かれて自信も芽生え、快調に進むことができたのである。



初夏、修猷館グラウンドで練習前の打合せ（中央は八木コーチ）

夏合宿（8/19～9/1）

八幡製鉄鞘ヶ谷競技場



フッキングの練習（左端は中島先輩）



練習がない時は寝ることがすべて

関西学院大 31 (14 <sub>17</sub> ニ <sub>13</sub> <sup>8</sup> ) 21 西南学院大		(レフェリー・関学OB)	
新居 延川 井原 小川 林	FW	本 田	2 T 1
		秋吉(元)	1 G 1
田中 桑村 西福 箕島 塩西 山谷 本本 寺沢 武仲 塚大	HB	大 野	1 P 0
		長 崎	14 前 8
山本 本	TB	山 崎	3 T 1
		右 田	1 G 2
寺武 塚大	FB	石 橋	1 P 0
		水 野	17 後 13
		岡 本	31 計 21
		高 橋	2 反 9
		秋吉(包)	
		松 津	
		川 楠	

前半は関学が7分PGと19分ルーズから左に回してのトライでリード。西南は30分関学陣左10ヤードのルーズから水野が抜けて好走、好フォローした松津約30ヤード力走してポスト右にトライ、中田G。続く33分右オープンを見せ、ライン参加した楠川が右隅にトライをあげて8対8の同点に持ち込む。しかし関学も反撃、38分タッチから右に回してトライ。更に40分FWの押し込みでトライを奪われ、前半終了。

後半9分、関学FWにルーズから割って出られトライを許す。14分高橋が突進し、ゴール前で開き気味の岡本へ困難なパスを試みるもトライならず。18分こぼれ球を拾った松津が関学の防御を巧みに抜けて、駿足約40ヤードポスト直下にトライ、中田G。20分タッチ沿いでFWの球を受けた中田が好走して左隅にトライ。25分旅の疲れか右田が足にけいれんを起し、防御が薄くなった処を突かれてトライを許す。29分関学陣に入って35ヤード右田がよく球を得て切れ込みポスト左にトライ、中田G。34分楠川の落球で、更に39分タイトから西南の球出しを反則気味のドリブルで、関学に連続トライを奪われて敗れた。

西南としては、かなり無理と思われる遠征日程を組み、練習なしで試合に臨んだが、関西の雄関学との対戦とあって士気旺盛、闘志に溢れる試合を展開した。FWは押しも出足もよく真正面から突進し、バックスは堂々とオープンに回して好走

をみせたが、敗退を余儀なくされた。終って西南の天晴れな試合ぶりにスタンドからも絶賛をあげ、そしてお世話になった在阪の諸先輩への感謝と共に雪辱を期して帰途についたのである。

なお地元紙は次のような記事を掲載していた。

『躍進の西南、関学に善戦……』

九州の名門西南学院は小柄な選手ばかりだが、腰が強く、いい走力と忠実なプレーで関学に対し堂々オープン戦でよく関学陣を陥れ稀に見る好試合を展開、振り切られて惜敗したもののその善戦は立派だった。西南FWはルーズにバックよく関学を押し、タイトのフッキングも巧く、中心となるべき選手のいない関学FWを圧倒していた。しかし関学FWの個々の突進をささえきれず、関学TBの快走に差をつけられたが、前半の西南HB水野、右WTB松津の突進、後半関学陣深く攻め込み、22分松津、25分中田、33分右田がトライをあげたあたり、関学危うしの感さえ抱かせた。関学は弱点だったFBに大塚を配し、ベストメンバーで臨んだのであるが、高いタックル、ルーズプレーの拙劣、無意識にあげるラインのバントが災いし苦戦していた。それにしても西南の躍進は目ざましく、今後同大などの関西学生チームとの対戦を希望しているので選手に体力が加われば脅威的存在となるだろう。』

『西南善戦敗る……』

新制大のナンバーワン西南の闘志はキックオフからプレーにありありと現れ、ノー・サイドまで力一杯戦った。3・4・1FWは突っ込みも出足もよく関学に1PG・1Gを奪われてもひるまず、前半33分には楠川のトライでタイに持込み、後半も25対21まで追いつめたあたり天晴れの活躍ぶりだった。ことにスタンド・オフ中田の好判断と右ウイング松津の好走は光っていた。今シーズン関西では初めて見る好試合で関学順当の勝利だが、西南力量は関西ビッグ3に数えられてよい。』



西南学院大 27 (19 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> 0 <sup>3</sup> ) 3 福岡商科大		(レフェリー・新島氏)	
塚本大長	FW	北安池小	3 T 1
山崎		島部田河	2 G 0
右田倉橋		仲丸武藤	0 P 0
佐々野	HB	鶴行後	19 前 3
石中松		長光田藤	1 T 0
水津橋	TB	小花木	1 G 0
高橋		原	0 P 0
秋吉(包)	FB	三川	8 後 0
楠川		飯干	27 計 3
			7 反 11

西南学院大 54 (21 <sup>0</sup> / <sub>3</sub> 0 <sup>0</sup> ) 0 長崎大		(レフェリー・平山氏)	
山本大	FW	石大今近	1 T 0
本野		川場村田藤里	3 G 0
長塚		堀瀬	1 P 0
右田倉橋	HB	一番	21 前 0
石中松		林竹川	6 T 0
岡高	TB	内田	3 G 0
渡津川		原口岡田	0 P 0
	FB	松吉	33 後 0
		浜	54 計 0
			4 反 7

前半、西南のキック・オフの球を福商大がミス、西南はルーズから右へ高橋が突進してポスト左にトライ、この間約40秒G。6分タイトから右オープンに回して秋吉が右中間にトライ。14分タイトから左オープンに回して松津がトライ、19分タックルの甘さから福商大飯干にタッチ沿いの好走を許してトライされる。26分タイトから右オープンへタッチ沿い内側に好フォローした中田が抜けてトライG。29分福商大ゴール前のルーズから左へ松津が左隅にトライ、Gとなり勝敗を決した感があった。

後半8分、中田が大きく右隅へパント大上走ってトライ、ペナルティ・トライが認められ中田G。27分タイトから右オープンへ松津・中田・高橋・秋吉・楠川・大上と回して右隅にトライをあげる。

期待した点差が得られず逆にディフェンスの甘さをつかれてトライを許す結果となったが、両者の体格に差はなく。今日の勝因は練習量の賜であった。なお翌日の新聞に概要次のような記事がみられた。

『西南のチームプレイに対し福商大は個人プレイが多く、せっきくのチャンスもいま一步の決定力がなく敗退した。福商大は、飯干・川添と渡って川添が独走トライとなったが、これからみても個人の走力、体力は決して西南に劣るものではなく、練習と研究の不足が、こんにちの実力の相違となって現れた試合であった。』

前半10分、長崎大陣25ヤード中央でペナルティを得て中田G。20分長崎陣に深く入り左隅のタイトから右オープンの時、水野がブラインドを突いてトライ。25分ルーズから岡本がトライG。30分渡が右タッチ沿いに走ってパントで大きく左に返し、石橋が拾ってトライG。

後半8分松津、10分と12分岡本、15分タイトから水野が抜けて30ヤード独走トライ。18分石橋がチャージした球を拾ってトライ。21分スクラム・トライ。25分大野、27分岡本、29分中田とたてつづけに長崎陣を陥れて快勝した。

前日宮崎大を逆転で破った長崎大は、前半好調に出て20分の水野のトライまで、10分のPGを許しただけであった。パントは用いるなどの速水監督の指示で、スタンド・オフ中田も苦心気味であり、高橋も再三マークされていたので、渡の内側へのパントが印象に残った。昨年に続いて全九州大会優勝。まずは、名古屋の全国大会へ向けての順調なスタートとなった。

その後、新聞は全国新制大学ラグビー大会を展望して、依然強い西南学院、あなどれぬ青山学院としたうえで、青山は東大・法大・成蹊にも勝っている、力量も西南について高く買ってよいとし、早大OBをコーチに練習をつんでいるだけに、その戦法もラインに球を回してウイングを走らす速攻法をとっており、西南と堂々の陣を張ることだろうと評していた。

西南学院大 33 (14-23)		12 青山学院大	
(レフェリー・石井氏)		(関東代表)	
山本	FW	彌田	3 T 1
小出		鈴木(保)	1 G 0
大野		牧田	0 P 0
長		米倉	14 前 3
藤本		堀川	3 T 1
右佐		池田	2 G 0
石橋		信永	0 P 2
水中		永平	19 後 9
岡田		米川	33 計 12
高橋		佐藤	6 反 2
秋吉	TB	高石	
松		橋	
藤	FB	金	
		子	

この日のグラウンドは曇天で西北の風が吹き、前夜の雨のため余り良いコンディションではなかった。

前半5分、青山陣27ヤード左中間のルーズから、右オープンへ高橋が巧みに防御ラインを抜けてポスト直下にトライをあげるG。9分自陣25ヤード、FWがタイトの敵ボールを奪って右オープンへ、松津、中田、松津とリターンして青山陣25ヤードでルーズとなり、右田が出て倒れたところ佐々倉がドリブルで持ち込みトライ。13分青山中央から左へパント、ウイングに拾われて好走トライを奪われる。20分青山陣左隅のルーズから右オープン、松津のリターンパスを受けた秋吉が右中間にトライ。34分青山陣に入って左中間30ヤードのタイトから、持って出た石橋に好フォローした長が飛び込んでトライをあげる。

後半2分、青山ウイングにタッチ沿いの球を拾われて密集を抜け、約50ヤード独走のトライを許す。5分青山陣に深く入りタッチから長が割って出てトライ。17分ルーズから左へ高橋が左中間にトライ。18分青山のキック・オフの球を長がキャッチして、自陣から水野・右田へ、好フォローした石橋が40ヤード好走トライ。20分青山陣25ヤードのルーズから中田が抜けて、大野がゴールポスト直下にトライG。24分青山PG。29分ルーズから左へ中田右へ周り、秋吉が青山防御ラインを抜けて松津へ、駿足約30ヤード走って

トライをあげる。青山PG。ノーサイド。優勝。

試合は前後半とも着実に得点を重ねて実力を発揮し、勝利を得たが、ディフェンスの厚味を欠き、青山の両ウイングに得点を許したことは大いに反省すべきである。敗れたとはいえ、青山は初出場ながら正攻法をみせて攻撃力に威力を増す感があり、反則も少なく、立派な試合ぶりであった。

かくて我々は、全員の奮闘で相手を粉砕し、ここに全国新制大学大会三連勝を成し遂げた。また全国高専大会時代から実に六連勝の偉業となり、伝統を守ることができたのである。……感無量。

この栄誉は、速水監督、河野部長、八木コーチをはじめ諸先輩の努力と応援によるものであり、深い感謝とともに心からの贈りものとしたのである。更に我々は、意義あるものにするためにも一層の研鑽を重ね、西の王座を夢みて前進をはかることを決意したのである。

なお地元紙は次のような記事を掲載していた。

『 西南学院が三連勝……

練習量の積んだ西南ははげしい闘志で青山を押し全員がよく動いて快勝、輝しい三連勝を遂げた。キック・オフ直後、青山はペナルティ・キックを得たが、強風に流され惜しくも失敗、それから後も元気がなく、ノー・タッチから平林の20ヤード独走、さらに石館のゴール前のドリブルで最初のトライをあげたに止った。後半に入るや、3分、密集を抜けた米川が独走トライ。ついで25分と34分に辛じて2つのPGをあげたが、いま一步の力が欠けていた。

これに反し西南のスタンド・オフ中田は落ち着きのあるプレーでよく味方を締め、敵のディフェンスの薄いものを見るや巧みなスワープで抜き、あるいは強風を利してのパント戦法で青山陣に肉薄するなど好判断による正攻法を用いてよく味方をリード、ほとんどの得点機をつくっていた。中田についてもFWもTBもまたよく動き前半5分、ルーズから中田が抜けて出て好フォローした高橋がゴール右に最初のトライをあげたのをきっかけに固くなりすぎた青山を引きはなして着々加点し三連勝の偉業を遂げた。』

●思い出のアルバム



前半の熱戦  
青山スローイン



後半2分  
青山米川、タッチ沿いを独走



優勝の表彰状を受ける  
佐々倉主将



●思い出のアルバム



優勝（名古屋端穂競技場）



全国大会三連勝  
優勝パレード  
（天神岩田屋）



毎日新聞福岡支局前

同志社大 34 (16-3) 15 西南学院大						
(レフェリー・平山氏)						
島 古 森 多 築 磯 永 岡 大 上 永 藪 広 吉 金	川 田 山 川 井	FW	山本	2	T	1
			本田	2	G	0
			塚長	0	P	0
	塚 野 田 島 木	HB	山崎	16	前	3
			右倉	1	T	3
			佐橋	3	G	0
	大 上 永 藪 広 吉 金	TB	石野	0	P	1
			水中	18	後	12
			岡高	34	計	15
	大 上 永 藪 広 吉 金	FB	渡津	5	反	9
松秋						

この日薄曇、東の冷たい風が吹いていたが、グラウンド・コンディションは良好であった。

前半5分、タッチから西南スローイン、同大のFWが割って出て左中間にトライを奪われる。9分同志社陣右隅のルーズから同志社に出るもハーフのパスミスで佐々倉がドリブルしてトライをあげる。同大に16分広島、19分永野、22分FWのドリブルからトライを奪われて前半終了。

後半、同大のキックの球を受けたFB秋吉が慌ててパスミスした処を、同大ウイング吉田に拾われ約50ヤード独走のトライを許す。やや反撃の機をそらされ、続いて同大に2ゴール、1トライを許し、34対3と大きくリードされる。その後西南FWが押して、18分タイトから水野が抜けて佐々倉へ、好フォローした塚が飛び込んでトライ。24分同大陣に入って10ヤード高橋が球を得て巧みに抜け出て独走トライ。26分同志社陣左隅のルーズから水野がサイドを抜けてそのままトライ。35分ペナルティを得てPGを返したがノーサイドとなった。

試合は、前半から押され気味でディフェンスの薄さをつかれて、同志社を好調に走らせ大量点を許すこととなったが、力戦奮闘して幾度か同志社陣に迫ったが得点を得られなかった。後半の半ばから塚もスクラムに組みなれFWが押し込むようになり、連続3トライをあげたが反撃も及ばず同志社に敗れたのである。

全国大会以降の空白があり約20日間の練習で試合に臨んだが、故障者もあり十分な力量で戦えず残念でならなかった。

なお新聞は次のような記事を掲載していた。

『 同大順当の勝利……』

34-15、得点が示すとおりやはり同志社が一枚上であった。西南も後半の終りに反撃して連続3トライを返したが、FWパスから塚があげたものを除くとみんな個人の突進から生れたもので、チームプレーの美しい流れは見られなかった。

これにくらべ同志社は先の対製鉄戦とは見違えるほど充実し、FWがまず押してボールを取ったので、バックもよくスタートがつき上坂、広島の快走するところとなった。

試合はまず同志社が5分永野のトライから後半16分磯川のトライまで、完全に自己のペースで試合を進め、34-3と一方的にリードした。これまでに西南が今すこし厚味を持ったディフェンスをしていたら、それほど点がひらかずにその後の3トライが生きたと思えるが、その間の56分をまったく引きずられていたのはまずかった。

いずれにしても西南はすこし固くなっていたようである。』



ハーフタイム (中央は速水監督)

# 第54期 (1953年度)

部長／河野 博範  
監督／速水 伝吉  
コーチ／八木 隆輔  
S28.4～29.3



日英親善交換試合 対英艦タイン号

## 54期メンバー

- 4年生 秋吉 元・大久保富雄  
岡本 信弘・楠川 慶一  
佐々倉千秋・中田 主基  
右田 和雄・山崎 満
- 3年生 池田 欣一・伊藤 申吉  
大上 昭雄・大山 浩司 (旧姓 長)  
本田 博士・山崎 恵淳  
高橋 和臣・藤田 浩三  
岡部 秀安・山本 和好  
水野 能栄
- 2年生 秋吉 包雄・浅川喜久夫  
堺 紀代美・中野 久司  
宝来 武史・許斐 英朋  
石橋 学・今橋 利重 (旧姓 渡)
- 1年生 大野 靖彦・吉崎 彰人  
小松 俊彦・武田 健

- 昭和28年9月 ケンブリッジ大学対全九州軍に佐々倉、中田、高橋の三君選抜さる。
- 昭和29年1月 早稲田大学対全九州軍に佐々倉、高橋の二君選抜さる。高橋出場。
- 昭和29年3月 全日本三地区対抗ラグビー全九州軍に佐々倉、高橋の二君選抜さる。

## 戦績

### ■ 公式戦

- 34 - 14 門司鉄道管理局
- 0 - 3 九州電力
- 15 - 8 九州電力
- 8 - 26 関西学院大
- 12 - 16 福岡クラブ

### ■ 第3回全九州大学ラグビー大会

- 76 - 0 福岡商科短期大
- 50 - 0 九州大
- 19 - 6 福岡商科大
- 不戦勝 福岡学芸大
- 38 - 0 久留米大
- 14 - 6 福岡商科大
- 68 - 3 宮崎大 (優勝)

### ■ 日英親善交歓試合

- 26 - 13 英艦タイン号



対関西学院大学

11月1日(日)  
西宮球技場

関西学院大 26 (0-3)		8 西南学院大	
(レフェリー・杉本氏)			
新延	居川 原野 林	山本 本 塚 長	0 T 0
井			0 G 0
浜			0 P 1
田	中山 坂	山崎 右田 野	0 前 3
桑			1 T 0
寺	藤西 内岡	水野 中田 吉	4 G 1
齊			1 P 0
箕	山高 富	秋高 橋	26 後 5
山			26 計 8
岡	田仲	渡上 大	7 反 11
武			
寺	FB	楠川	

前半は、風上を利用してパント戦法で関学陣をおびやかしFWも好タックルで健闘。20分関学陣に入って左中間25ヤード、関学バックローのリメーン・ペナルティを得て、中田よくG。烈しい攻防戦が続いた。

後半7分、関学は西南陣の25ヤード左のタイトから西南の球を奪い右オープンに回して武仲にトライを許し、3対3の同点となる。10分関学陣に入って15ヤード中央左よりのタイトから中田がパントを大きく上げ、関学インゴールを転々とする間、大上と渡が追って大上トライをあげるG。8対3とリードして攻防が続いたが、14分関学は自陣25ヤード上の密集から武仲が出て、高岡・武仲とリターンして独走となりポスト直下にトライを奪われる。再び同点となる。その後、疲れ気味の西南は調子の出た関学に及ばず、20分、24分と寺坂のトライ、29分富田のトライ。さらにPGを許して試合終了。

西南FWはよくタックルとねばり強さで関学を圧倒し健闘した。ボックスのハンドリングわるくチャンスをものに出来なかったが、全員終始忠実に球をひろい善戦空しく敗れたのである。

今回の遠征では、大阪の企業倶楽部を利用したが、旅館と異り気分的にまた食事の面からも選手の体調は必ずしもベストではなかったように思われた。

なお、地元紙は次のような記事を掲載していた。

『 関学後半の地力……

西南はその攻法が余りにも単調過ぎていた。FWが球を取ってもTBラインに回したのはわずか三度ぐらいい、後は全部中田がキックしていた。余りにも変化に乏しい憾があった。勝った関学も前半の動きは全くはがゆいくらいで、鈍重そのものだった。富田の50ヤード独走トライから漸く息を吹き返し、その後は寺坂のフォローを織り交ぜて大きく開いてしまった。関学実力の差といっても前半の拙戦は頂きかねる。』

全九州大学ラグビー大会予選

11月21日(土)  
平和台競技場

西南学院大 19 (11-3)		6 福岡商科大	
(レフェリー・平山氏)			
本吉	田崎 塚 長	立垣 山行 仲	2 T 1
山			1 G 0
右			0 P 0
佐	池田 水野	鶴丸 東	11 前 3
水			1 T 0
中	岡本 高橋	後藤 小花 長光	1 G 0
岡			0 P 1
高	渡上 大	津青 原	8 後 3
渡			19 計 6
大	川	井元 飯干	5 反 3
楠			
	FB		

前半10分、西南陣に入った福商大FWが右隅になだれ込みトライを奪う。17分西南は福商大陣右よりのルーズから水野・中田と抜けて高橋が好走、ゴール前で右田が受けて密集に入るも、感よく好フォローした塚が飛び込んでトライをあげる。24分西南タッチ沿いから中田が抜けてフォローした佐々倉がポスト左下にトライG。27分西南が福商大陣へ深く攻め入ってゴール前の福商大のミス球を長が拾って左中間にトライ。

後半12分、福商大PG。28分福商大ゴール前のタイトから右オープンへ回して大上がトライG。30分ボックスをフォローした右田トライ。試合終了。

立ち上がりから福商大に鋭く攻めかけられ、食い下がりみせて10分トライを許したが、徐々に調子を取りもどしながら福商大の進撃を振り切った。西南は技術的に上廻っていた感があったが、それにしても関学戦のやまを越えて闘志に欠けた試合であった。

西南学院大 26 ( $\frac{20}{6} - \frac{0}{13}$ ) 13 英艦タイン号		(レフェリー・平山氏)			
山本 本田 堺長 山崎 右田 大野 佐倉 水野 中本 岡本 高橋 渡上 大楠	FW	ブリテン	4	T	0
		ベンセン	1	G	0
		ハーベイ	1	P	0
		チャーリック			
		コーカー	20	前	0
		エリオット			
		ハイフー	2	T	1
		ボートン	0	G	2
		レディング	0	P	0
		アポット			
中本 岡本 高橋	HB	ボーエン	6	後	13
		エンダビ	26	計	13
渡上 大楠	TB	リック	3	反	3
		ミクルソン			
	FB	ホーキンズ			



両チーム主将ペナント交換

前半3分、西南タイン号陣に深く入ってタイトから左オープンに回し、中田、渡、高橋、中田とリターンして左隅にトライ。8分タイン号自陣からのキックを受けた堺、ダッシュした岡本、右田さらに好フォローした堺がポスト直下にトライ、中田G。14分タイン号陣25ヤード中央のタイトから右オープン大上が好走トライ。19分中田PG。22分タイン号陣深く入ってタイトから水野ブラインドへパス、岡本がトライ。24分ルーズから西南球を得て右オープン大上がトライ。

後半2分、タイン号のパスミスにカットした高橋がトライ。10分タイン号がTBパスをみせて中央にトライを奪うG。16分西南右オープン大上がトライ。25分タイン号西南陣に入って大きくパントをあげ大型FWが追ってトライを奪う。28分タイン号西南陣10ヤードのタイトからバック

スを好フォローしたFWにトライを奪われてG。ノーサイド。

佐世保ラグビー協会の中西氏と学院の河野ラグビー部長の間で、英艦タイン号との交歓試合の話が纏まりお世話頂いたことに心から感謝いたすとともに素晴らしい試合の後、中洲のピール園にてミーティングを開催し、日英親善の一日を過ごすことが出来たことは何よりの喜びであった。

ミーティングは、協会・学院関係者・OBを交えて会話ははずみ、玄海の波(部歌)、ラグビー・ソング(タイン号)、欧米のフォークスやポピュラー・ソングも飛び出してエール交換の後、参加者全員で『蛍の光(Auld Lang Syne)』を合唱して閉会となった。

初めての親善試合であり多少の不安もあったが、タイン号の選手達が心底からラグビーを愛し、プレイを楽しむ姿に感銘をうけたのである。



西南ルーズから球を得て右へ水野から中田へのパス



佐々倉主将 (8) のスローイン



河野 (教授)・平山・速水・主将 (cap)  
新島・八木・団長 (Boss)・藤井 (教授)  
(左より。後ろ向きは中西氏)



タイン号水兵選手と共に



乾杯!!



対福岡商科大学（準決勝）

12月5日（土）

西南学院大 14 ( $\frac{6}{8} - \frac{3}{3}$ ) 6 福岡商科大					
(レフェリー・斉藤氏)					
山本 塚長	FW	松本 2	T	1	
		山崎(武) 0	G	0	
山崎 野田	FW	行武 0	P	0	
		鶴丸 6	前	3	
山右大 佐々倉	HB	後藤 1	T	1	
		小長 1	G	0	
水野 岡本	HB	飯光 0	P	0	
		津田 8	後	3	
岡高 橋渡	TB	青木 14	計	6	
		原元 2	反	6	
大楠 川	FB	井宮 0			
		崎 0			

前半5分、福商大飯干のトライを許す。8分西南は福商大陣に深く入って左隅のルーズから、佐々倉がトリプルで持ち込みトライをあげる。29分西南再び左中間ゴール前のタイト崩れのルーズから佐々倉が割って出てトライ。

後半1分、福商大陣25ヤードのルーズから水野が抜けフォローした右田がポスト直下にトライG。9分西南速攻をかけ福商大陣25ヤードの中央タイトから水野ロング・パス、中田巧みに抜けて好走し岡本が左隅にトライ。試合終了。

なお地元紙評は概要次のように記載していた。

『福商大は試合ごとに実力をあげてきた。飯干のトライで西南の出ばなを砕き、前半はほとんど西南陣で戦うという敢闘ぶりをみせたが、バックスのボールの持ちすぎとパスのタイミングが悪くやはり西南に一步譲る形となった。一方西南は日頃の元気はなかったが前半終り佐々倉の2トライでリードを奪い、後半はまた、右田、岡本のトライを加えて押しきった。いまのところ技術はまだ西南が一枚上だ。』

長崎遠征、練習を終えて  
(宿舎近くのグラウンドにて)

対宮崎大学（決勝）

12月6日（日）

西南学院大 68 ( $\frac{31}{37} - \frac{3}{0}$ ) 3 宮崎大					
(レフェリー・長崎協会福本氏)					
山吉 本崎	FW	田橋 2	T	1	
		馬末 5	G	0	
山崎 野田	FW	森崎 0	P	0	
		黒中 31	前	3	
佐々倉 倉田	HB	近藤 4	T	0	
		藤田 5	G	0	
水野 岡本	HB	小蒲 0	P	0	
		黒池 37	後	0	
岡高 橋渡	TB	岩原 68	計	3	
		蛭賀 2	反	4	
大楠 川	FB	吉田 0			
		来田 0			

前半6分、大上が敵のキックをキャッチして左へ回し、中田から渡がトライG。14分大上トライG。17分佐々倉トライG。20分宮崎大のFWを止められずトライを許す。23分水野トライ。27分岡本トライG。29分タイトから敵ボールを奪って左オープン岡本がトライG。32分塚トライ。

後半9分と10分高橋2トライ。21分と23分水野が同じようにスクラム・サイドを抜けて塚と岡本で2トライ。25分秋吉、29分大上、31分岡本、34分FWと連続トライ。35分ルーズから高橋が快走トライとなって試合終了。

前日に長崎大を破った宮崎大であったが大差をつけて優勝。九州大会三連勝を飾ったのである。

(文/55回生・伊藤 申吉)





高校生に自ら基本動作を教えながら指導する佐々倉主将  
1次合宿の長崎大学にて（1953年8月）



初日の笑顔  
2次合宿の鞘ヶ谷にて（1953年8月）



原爆によって破壊された浦上天主堂にて

## 九州大会長崎遠征

(1953年12月)



宿舍の玄関前

## 「スタンドオブ物語」

ラグビーマガジン社の編集した「スタンドオブ物語」（1997年2月号）の中に、中田主基君が取材された。以下、その発表記事を転載する。

今回登場する中田主基は、現在64歳。昭和20年代から30年代にかけて九州・福岡を中心にSOとして活躍した人である。修猷館、西南学院大、九州電力、そして全九州を舞台に頭脳的なプレーで存分に暴れ回った。そして「九州にSOの中田あり」という声が関東でも広まっていた。時代が国際ゲームのないときであって、日本代表のような華やかな略歴はもたないが、中田の存在は全国から注視されていた。現役引退後も九州電力監督、全九州監督、九州ラグビー協会理事として活躍したのだが、ラグビーに対する情熱は現在も衰えをみせていない。

昭和28年、西南学院大2年生のとき、中田は初めて全九州に選ばれる。以後10年間、全九州のSOとして欠かすことなく選抜され、この記録は現在に至っても破られていない。当時の全九州といえば、八幡製鉄（現新日鉄八幡）全盛のときで、全九州のパワフルなFWの背後で、中田の独特のパスワーク、正確なコントロールで狙ったところに落とすキックは、冴えに冴え渡ってチームを自在に動かした。

このような中田のプレーを、じっと見守っていた1人の新聞記者がいた。朝日新聞社福岡総局にいた松岡洋郎記者で、早大ラグビー部のSHとして活躍し昭和23年の早明戦で、SO堀とコンビを組んで快勝したキャリアをもち、後にラグビー記者として健筆を振るった人である。その松岡記者から当時の西野綱三早大ラグビー部監督に「中田を早大に入学

させるべきだ」という報告がなされている。ずば抜けたSOとしての才能を見抜いての報告だった。

西野監督も大乗り気で、編入試験を受けるよう指示し、松岡記者も積極的に説得にいかかった。中田自身もこの話に心はずませる。そのころの修猷館、福岡高からは次々と関東大学ラグビーの中心だった早大、明大、慶大に入って、ぐんぐん力をつけたプレイヤーが輩出しており、中田が「おれも関東大学ラグビーでやってみたい」と考えたのも当然の話だったのである。しかも次兄（本城）の慶大SHとしてのプレーぶりが福岡の新聞に報道され、関東への憧れは人一倍のものがあつた。

だが、この早大への編入は結局は実現しなかった。「いろいろ理由はありました」と苦笑して中田は詳しいことを語らないが、その後西南学院大を卒業して九州電力に入社している。「早大へ入っても二軍で終わっていたかもしれないし、そうなれば九電にも入れなかったでしょう」というが、これは中田ならではの謙遜である。確かにそのころの早大SOには、名手とうたわれた新井茂裕がいた。

ここでまた「たら、れば……」になるのだが、もし中田がこのとき早大に入っていたなら「日本でも3本の指」に入るSOになっていたろう」と今でも惜しそうに語る人が何人もいたのである。しかし、現実には違うものになった。

人の歴史にはさまざまなターニングポイントがあつて、中田が西南学院に残る決意をしたのも、その1つといえるだろう。そして地元の大企業である九州電力から誘われて入社、以後のラグビー人生は充実したものになった。そして、SOとして独自のプレー



に磨きをかけていったのである。その中田のSO論は、今でも十分通用し、現代の若いSOにとっても耳を傾ける必要性のある基本が含まれている。

### 中田主基 私のスタンドオフ論

#### 段取り 8割仕事 2割

——中田さんは修猷館時代からラグビーを始め、32歳までSOの現役を続けたのだけど、その体験から得た「SOとはなんぞや」ということからお聞きしたいんです。

中田 うーん。(しばらく考えて) やっぱりいつも16人目のプレイヤーになりたいと思ってプレーしたことかな。16人目というのは、素晴らしいラグビーに対する私の思い込みとあっていいでしょう。いつもフォローすることを頭において、WTBの外につくとかCTBの間に入るとかね。それもルールが変わってからは、SOはこんなヒマなポジションはないわけで、思いっきり16人目のプレーがいつでもできるようになりましたものね。

——なるほど。

中田 あとは自分の段取りを考えることかな。段取りが8割で仕事が2割です。SOが一番最初にボールを取って命がけでプレーし処理して、あとはゆっくり自分はこうするんだという段取りを考えられるポジションなんです。私はこれが楽しみでね。あいつを喜ばせてやろうか、こいつはその後で喜ばせてやろうか、ということまで考えていました。後ろから情報を与えるために声を掛けるとか、自分で空間を考えると、そういった先読みが私なりに楽しかったものです。

——SOにとってパス、キックの技術はもっとも大事なものでは……。

中田 その通りです。私はその基礎的なものを修猷館のときから、びっしり叩き込まれてね。いい先輩に教わりました。

早大を出た堀さんと立大で活躍

した牧さん、このお二人に手取り足取りコーチを受けました」。パスは絶対に落としてはいかん。そのためにも取りやすいパス、ちょうどヘソの前にくるようなパスをほうれとか、口やかましくいわれたな。毎日パス500本とか、キック練習は1時間とか……。

——うん、うん。

中田 西南学院大時代はラグビーはハンドリングゲームで、キックはボールを離してしまうのだから、よほど考えて蹴らにゃならんとか、先輩によくいわれたけど、修猷館時代から継続、展開ということはいわれたし、その原点は継続するためにはボールを落とさんことから始まるのだと考えていました。NZの本をみたら同じこと書いてましたよ。

——ところで修猷館の監督だった今井さんの猛練習は、今でも語り草になってますね。

中田 そりゃもうひどい練習でした(笑)。グラウンド横の菓子屋のおばさんが「まあ子犬がごと、走らされちよる」(笑)といって呆れていたほどで、我々は泣きながら「殺せー、殺せー」といって走ってました。だけど、教え上手の牧さんから、パスしてからどのようなフォローをするか、コース、タイミングの取り方とか教わって、これが私のプレーの軸になったと思います。



1997年当時の中田

## ●思い出の記

——修猷館が東京で行われた国体で優勝したのが昭和24年……。

中田 ええ、そうです。準優勝でそれまでどうしても勝てなかった秋田工を破ってね。決勝は村野工に9—6で勝ちましたよ。いまの高校生には想像もつかないだろうけど、食い物がなく米が配給されていた時代で、選手は1日2合5勺の米を持って遠征したんです。

——どんなゲームだったんだろう。

中田 バックスにどんどん展開してね。今考えてもカッコよかったと思います。得点もすべてバックスだったし、そのときのプレーを早大関係者が見ておられたようで、早稲田のラグビーにぴったりと思われたようですな。後に早大に来ないかと誘われたのも、このときの印象があったからじゃないかな。

——なるほど。

中田 まあ、国体での全国制覇をいい記念にして修猷館を卒業して、西南学院大に入りました。ライバル福岡高からも何人か入ってきて、西南はそれなりの力はあったと思うけど、もっぱら名古屋の新制大学大会の常連でしたね。当時の西南学院は修猷館のそばにあって、しょっちゅう一緒に練習してね。SOの平島君（慶大、横河電気、日本代表）の指導役を私がやってね。平島君は根性もんで、私がむちゃくちゃな無理難題を仕向けると、砂をぶっかけて反抗してきましたよ（笑）。

### 走るスピードには 瞬発力と予期がある

——そして、西南学院大2年のとき編入という形で、早稲田、慶大という関東大学の中心のチームからこないかという誘いがあった。

結果からいうと、中田選手はかなり心が動いたと思うのだけど、行かなかった。なぜ行かなかったのだろう。もしあのとき、中田主基が東京の舞台でプレーしていたら、日本を代表するSOになったろうと、今でもいわれています。中田さんのようなケースは日本全国至るところにあって、中央に来ていたら、日本を代表する選手になっていたろうと考えられるケースはかなりあります。

中田 （遠くを見るような目でしばらく考えて）行かなかったのではなく、行けなかったのです。、兄貴も親戚も数多く関東の大学ラグビーで活躍していたし、そりゃ行きたかった。中央でやってみたいという思いは強かったな。東京へ行って秩父宮ラグビー場をみて、何回も何十回もここで思い切ってプレーしてみたいと思いました。これは、ラグビーをやっているものにとって共通の思いでしょう。

——なるほどね。

中田 早大と慶大のラグビー部の合宿所もみにいきましてね。どっちも汚かったんだけど、慶応の方が少しはましだったかな（笑）。当時、私の兄貴（SH本城）が慶応でバリバリやっていたね。この兄がめちゃめちゃやっていたけど、慶応の校風というか、いいなあと思いましたね。でも、さばざまなことがあって詳しくはいえないけど、泣く泣く東京へ行くことを断念しました。

——ふーん。

中田 でも地元に残ったことは、今考えてみるとよかったと思うんですよ。福岡県の大企業である八幡製鉄と九州電力からこないかと誘われたし、東京の大学チームで二軍生活してたら、まず誘われなかっただろうし、九州のラグビーに少しは貢献というとおこがまし

いが、なんらかのお手伝いできたのも、地元に残ったからできたんです。結局、九電に入社したんだけど、私はラグビーで入ったわけですね。10年はプレーするぞって腹に決めて、32歳までやりましたよ。

——なるほど。

中田 最初はラグビーができなくなったら九電をやめようと思っていたんです。だけど逆にラグビーできなくなって会社やめたらプロじゃないかと考え直して、そのままずっとです。

——それから、ずっと九電、全九州のSOとして活躍した……。

中田 いやいや、全九州とフランスの学生チーム（PUC）のゲームですよ。相手のFBにポロッとボールをもぎとられてトライされちゃった。ああ、これで私のラグビー人生終わったと思ったりね。いろいろありました。でも当時の全九州は面白かった。八幡製鉄、三井化学、そして九電とか個性豊かなサムライがそろってましてね。いうならば感情的なチームで（笑）やるときはやるが、やられだしたらあっというまに点を取られてしまったけど、楽しいチームでした。朝日招待でやってくる関東大学の優勝チームには、ほとんど負けなかったものね。

——ところで、中田さんの目から見た現在の日本のラグビーについての考えを聞かせてください。

中田 私はいつこの間も鹿児島へ行ってゲームをやってきたけど、つくづく思うのは、若いときも年にとってやるラグビーも、一番大事なのはスピードなんだなということです。今の学生のゲームをみていると、なにやらサインを出して、CTB辺りで意図的にポイントを作っているでしょう。それもみんな相手に

読まれるようなプレーです。意図的にポイントを作るのが作戦だなんていってるけど、これはどうみてもおかしいですね。自然にポイントができたときにすぐ対応できるかどうか、これだと思うんだけどね。

——その通りですね。

中田 私はいつもスピードというものは2つあると考えています。1つは走るスピード、瞬発力のあるスピードですね。もう1つはエキスペクティング、つまり予期するスピードというか、次の瞬間どこにどういったスピードで行くかを考えること、これがSOにとって大事なんです。SOはパスしたあとどうするか、パスそのものが情報を伝えるようになればいいし、声をかけることもいいだろうしね。

——なるほど。

中田 修猷館時代、攻めるとき相手のSOがディフェンスにくるとき、第1CTBの目をちょっとお前に向けさせろって教わった。その瞬間パスしたらお前の仕事は終わってるといいます。

——だれが。

中田 堀さんと牧さんですよ。ちょっとお前に目を向けさせることだけで引きつけ、第1CTBがずっと抜けるチャンスができるというんです。凄い人たちに教わったと思いますよ。

——ところで今の日本ラグビーは面白いですか。

中田 つまらんです。勝てばいいというラグビーは好かんです。ワンパターンだし、なんで真似のラグビーしかできんのか。なんで日本人のラグビーを忘れてしまったのか。大きい選手をそろえた方が勝つ、これはいけません。

# 第55期 (1954年度)

部長／河野 博範  
監督／速水 伝吉  
コーチ／八木 隆輔  
S29.4～30.3



記念写真 (1954年11月21日、平和台競技場にて)

## 55期メンバー

- 4年生 池田 欣一・伊藤 申吉  
大上 昭雄・大山 浩司 (旧姓 長)  
本田 博士・山崎 恵淳  
藤田 浩三・高橋 和臣  
岡部 秀安・山本 和好  
水野 能栄
- 3年生 秋吉 包雄・浅川喜久夫  
堺 紀代美・宝来 武史  
石橋 学・今橋 利重 (旧姓 渡)  
中野 久司
- 2年生 大野 靖彦・吉崎 彰人  
小松 俊彦・武田 健
- 1年生 森部 信二・花田 輝之

○昭和30年3月 全日本三地域対抗ラグビー全九州軍に高橋君選抜さる。

PASSWORD

“All men Fight unto Last”

Do this one thing!

Only this one thing!!

by Prof.H.Kawano

## 戦績

### ■ 公式戦

- 18 - 30 福岡クラブ
- 28 - 11 門司鉄道管理局
- 6 - 37 九州電力
- 39 - 8 久留米大
- 3 - 30 関西学院大
- 6 - 24 九州電力
- 6 - 17 八幡製鉄

### ■ 第4回全九州大学ラグビー大会

- 40 - 0 九州大
- 不戦勝 福岡商科短期大
- 不戦勝 福岡学芸大
- 32 - 10 福岡商科大
- 19 - 0 久留米大
- 38 - 3 長崎大 (優勝)

### ■ 朝日招待ラグビー

- 0 - 32 明治大二軍



対 関西学院大学

11月3日(祭)  
西宮球場

関西学院大 30 (11-2-3) 3 西南学院大

(レフェリー・杉本氏)

岩延井小	田川原川	FW	山吉本浅宝	本崎田川来	2	T	1
林	中山坂藤邨		堀長		1	G	0
田桑寺齐中富高武北寺	田岡仲垣沢	HB	池水秋山高	田野吉崎橋	0	P	0
			渡		11	前	3
		TB	大野		2	T	0
			大野		2	G	0
		FB			1	P	0
					19	後	0
				30	計	3	
				5	反	10	

前半は、2分と3分に関学が、18分に西南がそれぞれPG不成功の後、33分西南ゴール前近く関学の延川に割られてトライを奪われる。35分西南のキック・オフの球を関学FWが中央突破して桑山にトライされG。37分ルーズから関学中野左へ流れ富田にシザーズして左隅にトライを許す。39分西南は関学陣に入ってルーズから池田が抜け出てそのまま飛び込み右隅にトライをあげた。

後半、西南陣10ヤード西南タイトの球を奪われて斉藤から北垣にトライされG。17分パス・ミスに関学北垣が拾ってポスト直下にトライされG。22分関学富田の快走トライを許す。38分関学PG。試合終了。

前半はあせって反則も多く、チャンスを逸しながら33分にトライを奪われるまで善戦を続けた。戦前の大差の予想を案じたがよく健闘して自信をつけたようで、なかでもFB大野の健闘は絶賛をあげた。

なお、地元紙は概要次のような記事を掲載していた。

『 技術的に一枚上……関学後半に西南を牛耳る

関学は西南の激しいファイトに初め苦戦をまねいたが、やはり技術的には一枚上で急所を締めて快勝した。始め西南はキックで関学陣をきざみ、押し気味にゲームを進めたが決め手がなくトライを得られなかった。これに対し関学FWは出すべきボールをヒールして鋭いところを見せていたが

ミスをくり返してこれも得点にならなかった。

関学はようやく32分20ヤードライン・アウトを延川が割ってトライをあげ均衡を破ってから関学は調子を出し、トライを重ねた。西南はFWがよく闘ったがボックスはキック以外にこれといった決定力を持たないことがゲームを不利にしていた。』

西南楽苦美

伊藤 申吉

創設当時を語る中に『S・Hがスクラム上を越えてトライをすれば、勢い余ったF・Wはインゴールの判断出来ずドロップアウトに宣せられ得点を逸したばかりか試合に敗れた』という佳話がある。これは不屈の闘志をもって試合をやるその過程を楽しみ、結果を第二の問題とするラグビーを最も良く表現したもので、今日グランド無く、小柄の西南といわれながらも団結と闘志に優り、幾多の榮譽を得たわが部の誇りであると思う。

天候の如何を問わず、審判絶対服従のもと楯円球のボールを追い、汗と涙で堅めるグランドは自己力量の限界を知ると共に社会的態度の育成の場所であり、やがてこれをやる者の人柄をも改めさせてくれる。また全力を尽した試合の後で飲む水の美味さ、汚れた身体をふいた後の爽快さはラグビーにとって忘れられないものである。

三十年の歴史と百五十余名の卒業生を送り、全国大学大会三連勝（高専大会通算六連勝）を樹立したのであるが、今、部の存続さえ危ぶまれ誠に残念でならない。試合は飽くまで学業の余暇をさいて練習を励み、相手に失礼にならない条件を整えるのが礼儀であるが、幸か不幸か、学期末の成績のみで劣等生といわれる悲しい体育会選手がいることは事実である。しかし智育一方のみを費やし体育を一向に顧みないため、体格健康を劣っている学生は教育成績の総勘定から見ると劣等生ではなかろうか。私はこれら不公平を同輩に倍する努力を重ねる学生を尊敬している。

(筆者はラグビー部マネジャー)

1954年 西南新聞104号より抜粋

●全九州大学ラグビー大会（地区予選・九州大会決勝）

対 福岡商科大

11月21日(日)  
平和台競技場

西南学院大 32 (11-25) 10 福岡商科大						
(レフェリー・平山氏)						
山吉本浅宝	本崎田川来	FW	阿部	2	T	0
			垣内	1	G	1
堀長	池田	HB	山崎(武)	0	P	0
			山崎(保)	11	前	5
水野吉崎橋	秋吉崎橋	TB	安河内本	2	T	0
			仲東	3	G	1
森大野	渡部野	FB	古賀	0	P	0
			原木	21	後	5
			茨三吉井宮	32	計	10
			元崎	3	反	5

前半4分、福商大陣25ヤードのルーズから左オープン秋吉・渡・高橋・山崎と回して左隅にトライをあげる。17分中央線上のルーズから右へ高橋・渡・高橋とシザースパスをみせて福商大ラインを突破、高橋快走してポスト直下にトライG。23分西南陣25ヤード福商大のドリブルからFWに飛び込まれトライを許すG。25分ルーズからFW球を得て左に回して山崎がトライ。

後半、立ちあがり福商大が激しい出足で迫ったが、9分福商大陣のタッチから長が割って出て池田へ、好フォローした水野がトライG。17分ルーズから左にパント高橋取って中央ポスト直下にトライG。20分福商大にトライを奪われGを許す。26分福商大ゴール前のルーズから秋吉が中央にトライG不成功。29分タイトから左に回して高橋がパントをあげ自ら取ってそのまま好走トライG。30分福商大のキック・オフの球を長がキャッチ、自陣から好走して池田へ、パントをあげてなだれ込んだ本田がトライ。試合終了。

フォワードの球に対する執着が福商大を上廻ると共にバックスの巧みなパスワークとコンビネーションが勝り、予想を上廻る大差となったのである。

対 長崎大

12月5日(日)  
鴨池競技場

西南学院大 38 (24-3) 3 長崎大						
(レフェリー・新島氏)						
山吉本浅宝	本崎田川来	FW	本多	3	T	1
			楠谷	3	G	0
堀長	池田	HB	永橋	0	P	0
			田副	24	前	3
水野吉崎橋	秋吉崎橋	TB	栗山	3	T	0
			村管	1	G	0
森大野	渡部野	FB	山口	0	P	0
			田川	14	後	0
			西北	38	計	3
			石渡	5	反	3
			倉田			
			藤松			

前半4分、長崎大ゴール前中央のルーズから右へ回して渡がトライG。9分左ルーズから右へ高橋がトライG。18分高橋70ヤード独走シングルゴールで肘痛を気にしてミス、ドロップアウトとなる。20分FWが敵ボールを奪い左へ高橋トライ。23分タッチから長が割ってトライ自ら取ってG。25分秋吉パント自ら取ってトライ。28分西南25ヤードのルーズから長崎大の村里が抜けてトライを許す。30分左オープン高橋がトライ。

後半5分、ルーズから左へ高橋トライ。10分左ルーズから大上が球を拾い好フォローした池田がトライG。20分秋吉が好走トライ。28分ルーズから右へ回して大上がトライ。試合終了。

実力の差をみせて、第1回大会いらい四連覇を遂げたのである。



高橋主将シザースパスから快走（福商大戦）





対久留米大戦後 修猷館グラウンドにて (1954年10月)

最終戦の決勝へ



鴨池競技場にて  
(1954年12月)



桜島を背に  
ラグビー部卒業

●思い出のアルバム



鴨池競技場にて



九州大会優勝  
(四連勝)



喜びの卒業生 (55期)



スピーチの河野部長（タイン号交歓会にて）

### まさに息絶えんとす 西南ラグビーのこと

河野 博範

西南ラグビーは私の理想とは遙かにかけ離れたものである。しかし、今日まで我々は、我々なりに精進の一路をたどって来たことは断言出来る。それは、ラグビーが好きだからである。そして私は素人なりに、ラグビーの精神はフェアであり、公正であるべきである、と理解している。

下にかかげた英語のうたは拙作であるが、27年正月全国大会中に一節づつ出来た。そして西南専門学校三連勝、新制大学三連勝、と一連の関係をもっている。このうたは、前からの腹案があったというようなものでなく、一節づつその日その日に出来た。また速水監督は西南ラグビーのために、今まで何回か駅長になって外に出なさい、という上司のすすめもしりぞけ、自己の栄進の道もすてて後輩の指導に当ってこられた。

戦前、久留米の久医と本学とが覇を争ったことがある。その時それまで西南のコーチであった某が迎えられて久医のコーチに試合1ヵ月前にいき、西南の弱点を全部教えこんだ。従って虚をつかれた西南は無惨にも敗れた。その時若かった速水氏はスタンドから下りてきて涙をともにし、『西南のラグビーは、よそもんにはまかされん、おれがやる』といってそれからが氏のうちこみが始まり現在まで20年以上も続いている。

私はひるがえってラグビー部の現状を思うとき

感一入のものがある。昨年は十名近くを出し、今春は十数名を送り出す。名門西南ラグビー部も来年で、このままであればおしまいであろう。従ってこのうたはラグビー応援歌のつもりであったのだが、それはやがて挽歌にもなりそうだ。願いは本学の1・2年の諸君が自から進んで歴史と栄誉に輝くこの部に加わりこの部をもりたてていただくことを祈りつつこの稿を書く。

（本学教授・前ラグビー部長）

### RUGGER SEINAN

#### 「Chorus」

Let's go home now  
To our mother Old Seinan  
Let's sing a joyful song of triumph  
For the heroes on the shield of glory  
With a shout, with a cry  
In oneness of us fifteen ruggers  
Seinan, Seinan, Old Seinan  
Of white and dark green.

1. Fair and just's the heart of Rugby  
Dashing unto the goal ahead  
Carrying the ball to the last  
In oneness of comrades of us fifteen  
Seinan, Seinan, Old Seinan Ruggers  
Of white and dark green.
2. Fighting spirit's the heart of Rugby  
In loose or tight scrummages  
Tossing through the defense of the foes  
In oneness of comrades of us fifteen  
Seinan, Seinan, Old Seinan Ruggers  
Of white and dark green.
3. Self-sacrifice's the heart of Rugby  
Smiling in saving under the feet of the foes  
At the ball passing from body to body  
In oneness of comrades of us fifteen  
Seinan, Seinan, Old Seinan Ruggers  
Of white and dark green.

1955年 西南新聞110号より抜粋

ラグビーは社会的な態度の育成の場所であり、やがて忍耐強い円満な人格を創り出すことを教えてくれた。ラグビー精神をもってフェアプレイで進んで行けたことに感謝し、輝しい伝統の西南ラグビー部に在籍していたことを今でも誇りに思っている。

（文／55回生・伊藤申吉）



# 第56期 (1955年度)

部長／河野 博範  
監督／速見 伝吉  
コーチ／八木 隆輔  
S30.4～31.3



第4回全九州ラグビー大会優勝

後列左より宝来、堺、吉崎  
前列左より浅川、水野、渡、秋吉



試合終了後 (久留米大戦)



久留米大との熱戦

## 56期メンバー

- 4年生 秋吉 包雄・浅川喜久夫  
堺 紀代美・中野 久司  
宝来 武史・今橋 利重 (旧姓 渡)
- 3年生 大野 靖彦・吉崎 彰人  
小松 俊彦・武田 健
- 2年生 森部 信二・花田 輝之
- 1年生 柴田 常孝・小原 國明  
波多江康平・白井 徳義  
中尾 禧夫

## 全国大学ラグビー九州地区大会

- 福岡県予選2回戦  
(昭和30年11月6日・福岡商グラウンド)  
西南大 45  $\begin{bmatrix} 21 & 0 \\ 24 & 0 \end{bmatrix}$  九大
- 九州大会1回戦  
(昭和30年11月12日・久大医学部グラウンド)  
西南大 13  $\begin{bmatrix} 3 & 12 \\ 10 & 3 \end{bmatrix}$  15 久留米大



## 思い出の記

宝来 武史

灼熱の太陽のもと、夏合宿が1952年（昭和27年度）は8月19日～9月1日、八幡製鉄鞘ヶ谷球技場、1953年（昭和28年度）は第1次、8月1日～10日、長崎大学学芸学部、グラウンド、第2次8月18日～27日、八幡製鉄鞘ヶ谷球技場において行なわれた。

入部1、2年目の私達は、激しい、そして厳しい練習に耐え努力した。合宿の前後には、朝倉屋ピオネの前を通り百道浜へ、サクサクと砂を踏みしめ、全員足並みを揃え、ダッシュ、走力練習、持久力を養う愛宕神社参りで体力強化に努めた。

試合において練習で得た項目を発揮することができた。

1952年（昭和27年度）、第5回全国新制大学ラグビー大会が名古屋瑞穂ラグビー場で行なわれた。この大会には、TB・秋吉包雄、1953年（昭和28年度）第6回には、FW・浅川、大野、石橋、HB・水野、TB・秋吉が出場し活躍。連続優勝に大いに貢献した。

1954年（昭和29年度）は、九州大会で優勝した。全国新制大学ラグビー大会には出場せず、関西の大学の強豪、同志社大学、関西学院大学との定期戦、関東の大学優勝校明治大学の試合に重点をおき、技術・精神面の向上を図った。

1955年（昭和30年度）は、1年生の入部も少なく、部員不足に陥った。九州大会での敗退は初めての体験であった。

今は故人となられた速水監督、河野部長、また現在もご健在で、OB総会や現役の試合でお会いする機会が多い八木コーチから熱心なご指導をいただいた。また、私たちが現役での合宿やグラウンドでの練習中に、数多くの先輩OBの方々に足を運んでいただき、ご指導賜ったことに感謝しております。

## 夏期合宿の思い出

中野 久司

1953年（昭和28年）8月だったと思う。北九州市八幡鞘ヶ谷陸上競技場での合宿。当時、グラウンドは芝生でなく、ダッシュするとモウモウと砂ほこりがたつ荒れたグラウンドで、炎天下の中でダッシュ13回半、当時、八幡製鉄のラグビー部と一緒に合同練習だったと思うが、八幡製鉄の中島コーチから、闘志と技術をしっかり教えこまれた。

当時のハードな合宿の経験が、社会に出てから大いに役に立った。ラグビー根性をしっかりたたき込まれたのが合宿だった。

## 思い出の記

堺 紀代美

学校卒業後50年を経過し、学生時代を振り返ると感無量です。4年間は長く、充実した意義深い期間でした。卒業後社会人となり、どれだけ勇気づけられたか分かりません。夏の合宿や新制大学大会出場、関西遠征（同志社大、関学大）を経験しました。また、当時は地元大学との対戦が少なく、全国的にハイレベルの地元実業団チームとの定期試合などを行ない、そこで精神面、技術面において多くのことを学びました。入学当時は、上級生の卒業と退部者で部員が減少したため、高校時代に未経験の人も勧誘し、メンバーを揃えるのに精一杯の状態でした。

社会人になってからは、高度成長期の好景気の時期もありましたが、近年は不況が続き低迷しています。苦しい時期は学生時代の教訓を思い出し、その日その日を大切に一生懸命全力を尽くすと必ず道は開ける、の精神で頑張っただけで今日に至っています。現在は、健康管理に努力して、散歩やスポーツクラブで汗を流しています。

最後になりましたが、母校のチームの好成績を期待しています。

# 第57期 (1956年度)

部長／河野 博範  
監督／速水 伝吉  
コーチ／八木 隆輔  
S31.4～32.3



練習後、鹿児島鴨池グラウンド  
(上段左から2人目吉崎、7人目大野)



試合を待つ  
(左から1人目大野、6人目吉崎)

## 57期メンバー

- 4年生 大野 靖彦・吉崎 彰人  
小松 俊彦・式田 健
- 3年生 森部 信二・花田 輝之
- 2年生 柴田 常孝・小原 國明  
波多江康平・白井 徳義  
中尾 禧夫
- 1年生 藤井 忠・佐々倉為成  
竹末 長人・折居 良也  
吉村 正男・小西 数哉

## 全国大学ラグビー九州地区大会

- 福岡県予選1回戦  
(昭和31年10月28日・九大グラウンド)  
西南学院大 44—3 九州歯大
- 福岡県予選2回戦  
(昭和31年11月3～4日・久大医学部グラウンド)  
福岡大 11—3 西南学院大

## 57 期報告

57期・宝来 武史

平和台競技場は西南学院大学OB会員同世代の人達にとっては懐かしく、記念となるグラウンドである。

現役を退き、50年が経過した。試合の経過を示す喚声、歓声がグラウンドから外まで響きわたり、盛り上がっていたものである。

大野靖彦君 (FB) 勇敢なタックルで相手チームの出鼻を挫く働き、

吉崎彰人君 (FW) 機をみての咄嗟の突進力によるチームを優勢にたもつ働き。小松俊彦君 (HB) バックスの要としての働き。チームに貢献した。現在全員亡くなりました。

激しい、そしてきつい練習に耐え試合に臨んだ勇姿が思い出されます。

57期報告の、平成15年8月に小松君、平成17年3月には吉崎君が逝去されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

故吉崎彰人夫人よりご寄稿いただきましたので、ここに掲載させていただきました。

西南学院大学ラグビーのcomrades (男同士) 絆は永遠である。

「

生涯ラグビーを愛し続けた夫 故吉崎彰人

高校・大学とラグビーに明け暮れ、苛酷な練習に生傷を作りながらも合宿は楽しかった、と聞いておりました。

ラグビーに青春をかけていたのでしょう。

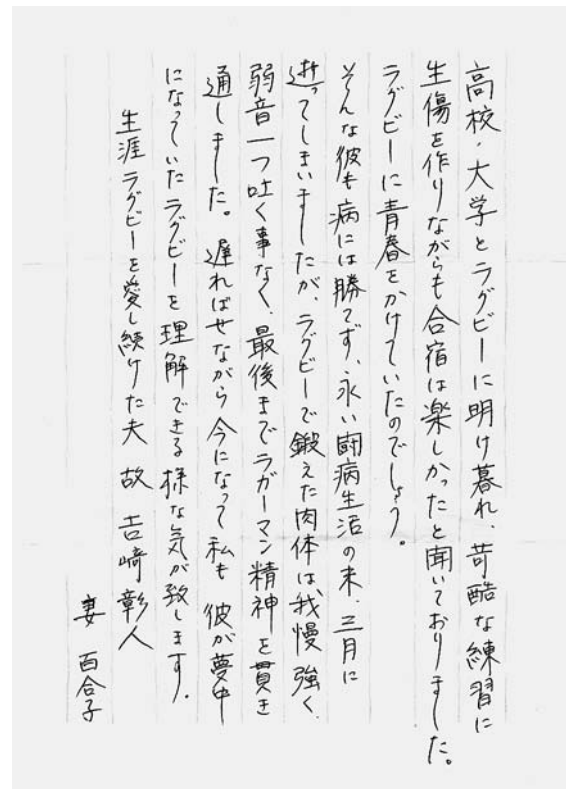
そんな彼も病には勝てず、永い闘病生活の末、3月に逝ってしまいましたが、ラグビーで鍛えた肉体は我慢強く、弱音一つ吐く事なく、最後までラガー

マン精神を貫き通しました。遅ればせながら今になって私も彼が夢中になっていたラグビーを理解できる様な気が致します。

妻 百合子



元気な頃の芳崎氏と奥様、お孫さん



# 第58期 (1957年度)

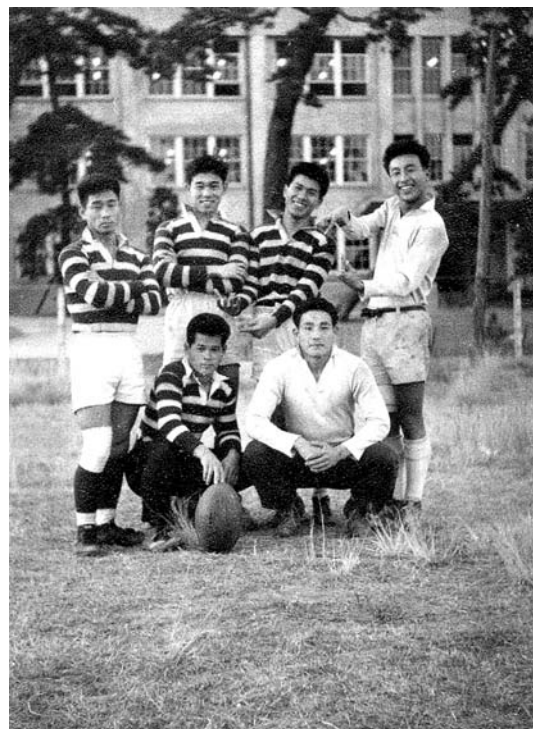
部長／河野 博範  
監督／速水 伝吉  
コーチ／八木 隆輔  
S32.4～33.3



森部1年の時 (福大戦)

## 58期メンバー

- 4年生 森部 信二・花田 輝之
- 3年生 柴田 常孝・小原 國明  
白井 徳義・中尾 禧夫  
波多江康平
- 2年生 藤井 忠・佐々倉為成  
竹末 長人・折居 良也  
吉村 正男・小西 数哉
- 1年生 小原十三雄・竹若 晴喜  
山見 誠・米田喜代志



森部2年の時  
(後列左より3人目)



## 58 期報告

58 期・森部 信二

この年も、新入部員は少なく、マネージャー（主務）を含めても17名で、毎日、全員揃っての練習は

出来ない状態でした。

山崎勇視先生が赴任されたのも、この年です。先生は、日体大を卒業されたばかりで、毎日、私たちと一緒に走っていただき、熱心に指導していただきました。

この結果、翌年からの2連覇（全国制覇）の布石になれたのではと自負しています。

## 青 春

原作 / サミュエル・ウルマン  
訳 / 岡田 義夫

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しい意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、

こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけでは人は老いない。

理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしばむ。

苦悶や、狐疑や、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ

恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。

年は70であろうと、16であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。

曰く、驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、

事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く失望と共に老い朽ちる。

大地より、神より、人より、美と喜び、勇気と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り

人の若さは失われない。これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、

皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至ればこの時にこそ人は全くに老いて神の憐みを乞うる他はなくなる。